

広がる5Sの輪

足利5S学校ニュース



5Sが生み出す品質改善 小規模企業の5Sの取り組み!

足利流5S活動(整理・清掃・整頓・清潔・躰)の普及に取り組み、足利5S学校(石井金吾校長/株石井機械製作所取締役会長当所常任顧問)では足利市内を中心に中小小規模事業者への5S導入支援を推進している。

今号では、足利流5Sをスタートして成果をあげている(有)彩電電工芸を紹介する。

【会社概要】 (有)彩電工芸



左から石倉喜久重代表取締役社長、石倉主計氏、羅田源鎮氏、羅田秀顕取締役専務

代表取締役社長 石倉 喜久重
所在地/足利市寿町18-3 連絡先/☎0284-44-2047
業種/精密部品業 社員数/4名
創立/1972年(昭和47年) 資本金/300万円

インストラクター活動事例 (株)清田アルマイト

第3期インストラクター

足利市借宿町1-5-13
☎0284-71-2652
清田 良大
E-mail: ha@www.seida.co.jp

展示品ディスプレイとしても使用でき、不要なものを入れなくなった。又、キャスターを付けたことにより、1人でも簡単に配置替えを行うことが出来るようになり、整理しやすくなった。

Q1. 5Sを取り組み始めたきっかけは?
大手得意先よりの受注が進むに連れて、品質管理などのレベルアップが急務となり、各得意先の工程管理方法と共通する5S活動をキックオフすることとなりました。

Q2. どのような改善活動しましたか?
キャビネットの扉を外し、中身の見える化を行った。さらに台車を作成し、簡単に移動・設置できるようにした。

Q3. 改善した結果は?
の農園で収穫したコーヒー豆を厳選した、自社ブランド商品「アシエンダール(農園の恵み)コーヒー」を足利工場で製造している。

「足利5S学校」との出会い、5Sネットワーク工場見学会や足利商工会議所の5S相談に参加したことが始まり。3年前、独自で全社的に5S導入のキックオフをしたが、その後、なかなか目に見えた形での効果

(有)彩電工芸(石倉喜久重社長)では、工業用、医療用内視鏡カメラのシボリ、マスク、競技用ライフル銃向け照準器を製造している。5Sを始め

まず、平成26年7月に自社で取り組みを始め、翌27年に足利5S学校の第6期インストラクター研修の受入実践職場に応募し、さらに進めることができた。

たきつけは、職場環境の劣悪さを得意先から指摘され、品質クレームやそれに伴う対応から納期遅れが顕在するようになったため。

得意先からは、生産現場視察において会社の改善努力が認められ、高い評価も得ることができ、これもひとえに5Sの効果であると感した。

羅田秀顕専務は、「整理・整頓で要・不要がわかり5Sを通じ、職場の掌握と決断力が育成



焙煎工場で説明を聞く参加者

ネットワーク工場見学会 (株)テラトレーディング

足利5S学校では、10月26日に足利市花園町の(株)テラトレーディングに設立、レギュラーコーヒの製造販売卸しを主とする(尾花正一代表取締役社長/足利商工会議所常議員)で、月例ネットワーク工場見学会を行い16名が参加した。

同社は、昭和63年2月に、各種コーヒの冷蔵・冷凍・常温商品も取り扱っている。世界各国

が得られないこともあり、仕切り直しするつもりで平成28年4月から始めた「足利5S学校」第7期インストラクター養成研修の実践研修受入事業所に応募し再度、取り組みを始めた。

原田憲一常務取締役は、「まだ初期の段階だが清潔な職場環境をつくることを目的に清掃を主にした3Sを中心に取り組みをしていきたい」と語った。

(柏崎記)



5Sを導入したことで、整理・整頓の徹底によって業務の効率化が進み、器具、生産設備の刷新に手が回せるようになった。また、製品の品質改善が進んだ。また、製品の品質改善に伴い、クレーム品がゼロになり、さらに業務の効率化で納期遅れを解消でき、納期の前倒しも実現することができた。



得意先からは、生産現場視察において会社の改善努力が認められ、高い評価も得ることができ、これもひとえに5Sの効果であると感した。

羅田秀顕専務は、「整理・整頓で要・不要がわかり5Sを通じ、職場の掌握と決断力が育成

され、さらには問題点の早期発見が出来た。5S活動は会社経営の基礎基盤である」と語ってくれた。

(柏崎記)

5Sから得られる効果①「不要な資料はつくらない」

今月は「不要な資料はつくらない」ということについて述べたいと思います。足利5Sでは、資料をつくることよりも現場での実務(5S)に時間を掛けたいというところから、出来るだけ資料をつくらないようにしています。5Sに限らず、作った資料が全くと言ってよいほど使われない確率が非常に高いという事実が、作らないうえです。作られた資料で終わってしまうもの、これだけやりましたというパフォーマンスのもの、誰も見ていないのに疑うことなかつつと作り続けているものなど、世の中には資料作りに追われてる仕事が多岐にわたります。書籍・トヨタの現場管理にこう記されています。「資料をつくるたつつもりが、資料にならずに紙量とか死量をつくる人が多い」

シリョーは資料でなければならぬ。と。大きな組織になると資料がつくる部室まで立ち上がって膨大な量の資料を取扱う場合も多く、本来であれば現場を見なければいけない責任者が資料づくりに追われて、机から離れられなくなっていることも少なくありません。資料の価値は枚数や厚さでは決まりません。つまり、目的を果たす実務よりも会議や報告資料の方が重視されてしまっている。資料の価値は残された資料の価値も一段と高まるはずですが、問題なのは、5Sで整理した現場では、作られた多くの紙量は不要になります。と。ところで、現場作業の中には頭で描いて行動出来ても文章で伝えることが苦手な人も多く、人が資料を要求するとその結果は、まさに死

量の山となりかねません。さらには必死になつて作られたものが、ともに使われなければ、現場は固く口を閉ざしてしまうので真実が隠れていくことになり、その反面、余計で不要な資料を整理すれば、現場の人たちは業務に集中出来て、その体質はスピーディーな行動へと変化する。さらに、理もれた紙の中から本当に必要な資料が導き出されれば、残されたその資料の価値も一段と高まるはずですが、問題なのは、5Sで整理した現場改善中心の仕事へと姿勢を変えてみて下さい。

参考文献「トヨタの現場管理」(門田安弘著)「日本能率協会」(安全衛生のひろば)「4Sを極める」(木村温彦著)より

きむら5S実践舎
鈴木 浩也